

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午後】
部会名	小学校 生活部会

テーマ 『「自分アルバム」作りを通した、気付きの質を高める学習活動』

おおきくなったね、ぼく・わたし

提案概要

実践に向けての課題意識

家族やまわりの人の支えを当たり前と感じ、特に意識しないで日々生活している子どもたち。自分たちの生活がまわりの人たちに見守られ、支えられて成り立っていることに気づき、その背景にある愛情に気付かせたい。その愛情を知った児童は、「うれしい」という気持ちと「ありがとう」という感謝の気持ちをもつだろう。そして、もっとがんばろう、もっと成長しようという気持ちになり、「人のために何かをする自分」に変わっていけるのではないかと考え、このテーマを設定し、実践をおこなった。

実践の概要（20時間）

- ①幼稚園にあそびにいこう
(5時間)
 - ・心も身体も大きくなった自分に気付く。(導入)
 - ・折り紙・コマまわし・外遊びなど、計画・準備をし、一緒に遊んだ。
- ②おおきくなったね
(2時間)
 - ・2年生になって成長している自分に気付く。(意識的なふりかえり)
 - ・できることや成長したことを付箋に書いて可視化し、発表し、共有化。
- ③お家の人からの手紙をよもう
(2時間)
 - ・お家の人への愛情に気付く(前もって児童に内緒で担任から保護者に依頼。)
 - ・お家の人からの手紙は意欲の喚起になった。これを核にしたかったので、ラストのまとめではなくここで扱った。はずかしそうに読む子、泣きながら読む子など、児童の気づきに大きな変化があった。手紙を読んだ感想も書いた。
- ④自分アルバムを作ろう
(6時間+家庭学習)
 - ・自分の成長には家族やまわりの人の愛情や支えがあったことに気付く。
 - ・0才から6才までを自分アルバムにまとめる。お家の人に話を聞いてくる宿題を毎週金曜日に出しじっくり取り組んだ。お家の人と話す時間を大切にしたい。
 - ・感謝の気持ちを表す。自分の成長をふり返り、自分なりの方法で表現する。
- ⑤3年生にむけて
(2時間)
 - ・3年生の理科や6年生の卒業式練習の見学を行った。もっと成長しよう、こんなふうになりたいという目標や希望をもって単元を終えることができた。

成果と課題

- お家の人に心から感謝の気持ちをもつことができた。(気付きの質が高まった。)
- 魅力ある題材(お家の人からの手紙)を単元の核に据えたことで児童の学習意欲を引き出すことができた。
- 様々な家庭環境への配慮に悩んだ。

質疑概要 (質問は3つ、あとは感想)

- Q) 再婚家庭等の家庭に対しての配慮はどうだったのか? 2ヶ月間という長い期間、宿題(週末に、お家の人から小さい時のことを聞いてくること)を出している。事前に確認すべきことだと思うが?
- A) アルバム作りの前と、途中にもこの家庭には連絡した。家庭環境への配慮には悩んだ。
- Q) 年長さんと3学期に交流することはあるが、幼稚園に行った方がいいと思ったのはなぜか?
- A) 毎年行っているのではなく、今回が初めて。自分のクラスだけの取り組み。歩いて5分の所なので。
- ・自分が子どもの頃、親に対して「してくれて当たり前」と思っていて感謝するということが自分ではできてなかった。今日のこの提案はよかったと思った。いい教材で、人として大きくなる単元だと思った。
 - ・小さい頃の写真だけでも、子ども達は興味を持つ。自分の実践では、写真と生まれた時の身長・体重・名前由来などを扱った。「名前にこういう願いがあったのか。」「小さい頃のエピソードは〜。」など、なつかしさがあっていい。今日の実践はとてすばらしかった。
 - ・道徳の副読本の「3年生になった〇〇へ」というページを使って、手紙を書いてもらった実践をしたことがあった。以前から保護者へは伝えてあったのでその時はよかったが・・・親から回収しきれない時などもあるので、必ず全員そろってから親の手紙などは渡すようにした。気を遣うことではあるが、配慮がしっかりできていれば、いいと思う。親がふり返ることにもなるので。

研究協議概要

(5つのグループに別れての研究協議、その後代表者による発表)

協議の柱

○児童の気付きの質を高める指導の手立てと児童の見取りについて

気付きの質

- ・先生の手立て（手紙・幼稚園・写真など）がよく、とてもいい学びだと思った。写真は枚数制限をしてもいい。
- ・幼稚園へ行くより1年生との交流もよいのでは。
- ・年齢の違う子ども達との交流は、自分への気付きになる。
- ・「アルバム作り」は、気付きの質を高めるよい提案だった。
- ・「自分アルバム」を発表した後に、他の子と交流することによってさらに、気付きの質が高まると思う。
- ・自分の良さに気付いて「ありがとう」の言葉が出てきているので、質の高まりを感じた。
- ・家庭環境の配慮は必要。
- ・多くの人の支えにより自分が大きくなっていく。家族に限定しなくてもいろいろな人との関わり（給食調理場の人など・・・）も考えられる。
- ・親の手紙のあと、どんなアルバム作りをするかを子ども達が考える中で、質の高まりにつながっていたと思う。
- ・個の気付きを、教師が声かけして広げてあげる。それをつなげていく（周りの子が気付いていく）ことが大切。

見取り

- ・表情・つぶやき・感想・手紙など。ビデオや子どもたちの動きを細かく見ているとよかった。
- ・「自分アルバム」の発表はもう少し軽くてもよかったかもと思った。ペアやグループの発表なども見取りやすい。
- ・内面（つぶやき）と外面・・・評価と指導の一体化。成長を実感するのは、大人でも難しい。将来の自分への手紙などもよいのではないかと思った。
- ・ワークシートや発言・行動・つぶやき等が考えられるが、見取りはむずかしい。
- ・文章で書くのが苦手な子は、つぶやきや絵などで。

まとめ概要

※提案の先生の1人ひとりへのていねいな声かけと指導に感心した。

※幼保小連携という点では、「幼稚園の子が、あんなに小さいと思わなかった。」など、身体的・精神的成長も実感できたのがよかった。

※「伝え合う」ということでは、友だち・年長さん・家族との交流を通して説明しようとか、わかりやすく教えてあげようなど、伝えたいという思いが大切。

※「プライバシーの保護」については、教師はどうしても目に見える成果物を作ろうとしてしまうが、それが目標ではない。「自分の成長がいろいろな人に支えられていると実感できること」が目標なので、例えば写真は2枚にするとか。また、同一の活動ができにくいこともあるので、学年で連携してほしい。

※「直接体験」で実感をともなった気付きをさせたい。交流をする中で、自分って家族に大切にされているかも気付いたり、自分のよさや可能性に気付いたりすることができる。

※先生がしかけて、子どもが直接体験し、それをつないで、1人ひとりを見つめて、安心感の中で育てていくこと。「安心して活動できる」ということは、そばにいて認めてもらえる、自分の気持ちを出せる友だちや居場所やつながりがあるということ。これが「気付きの質を高める」ことになる。

※「先生ありがとう。そばにいてくれて。」と以前、言われたことがある。お母さんにもそれを伝えたかったのだろう。以前、絵の描けない子にどう言葉かけをしたらいいかを質問したことがある。「その子のやったこと、そのものを言葉にしてあげなさい。それだけで、そばにいて認めてくれていて、知っていてくれると思うから。」と言われた。困り感のある子をどう見取っていくかも大切なこと。

※家族ということでは、「自分を発揮できる集団が家族」ととらえると、今回、「母」に限定せず「おうちの人」としても良かったかも。自分を見つめ直すことが、気付きの質を高めていくこと。今回の提案は、お家の人に心から感謝の気持ちを持つことにつながっていた。